

科学万博'85インフラ整備の思い出 渡邊一夫氏 × 江畑慶二氏

元県土木部長 (当時・県土木部道路建設課)

元県土木部検査指導課首席検査監 (当時・国際博覧会公共事業建設事務所技師)

いばらきの公共事業を紐解く



江畑 慶二(えはた けいじ) 1951年9月13日生まれ。72歳。74年4月に土木部入庁。2009年には東茨城地域下水道事務所長、10年には境工務事務所長を務め、12年3月に検査指導課首席検査監で定年退職。同年4月からは、当時の経験を活かし、豆(株)に勤務している。

「科学万博」の思い出。1985年、茨城県は、河川改修工事に伴う一元重橋の拡張・拡張の架け替えに携わりました。当時の筑波研究学園都市は、国の各官庁の研究機関の建設や、東大通り、西大通り、北大通り、南大通りの建設工事の最盛期でした。昭和52年、54年、茨城県道路公社(当時・新大井根橋有料道路建設事務所)に計画の職員でスタートし、

関連道路整備が地域発展の礎に

私は昭和49年、茨城県土木部に入庁し、土木部本務所に配属されました。主に研究学園都市建設関連で、旧土浦市井天、旧桜井、旧土浦市井天、旧土浦市井天の河川改修工事に伴う一元重橋の拡張・拡張の架け替えに携わりました。当時の筑波研究学園都市は、国の各官庁の研究機関の建設や、東大通り、西大通り、北大通り、南大通りの建設工事の最盛期でした。昭和52年、54年、茨城県道路公社(当時・新大井根橋有料道路建設事務所)に計画の職員でスタートし、

ました。最盛期には、100名を超えたと記憶しています。事務所発足当初は、観客輸送道路の明確な計画や骨格が示されておらず、各工区は、土浦市、下館市、水戸市、石土市、下館市、土浦市、石土市、下館市の主要事業を引き継ぎ、工事を進めていました。土浦市からは、土浦北ICにアクセスする国道125号都和バイパス、桜井ICから学園東大通り間の国道354号の4車線、土浦市、下館市、水戸市、石土市、下館市の主要事業を引き継ぎ、工事を進めていました。

手つづき線(サイエンス通り)・土浦学園線(エクスボ通り)の暫定6車線化、354号東大通りから国道354号東大通りまでの4車線化の事業がスタートしました。工事設計、用地測量、用地買収の算出、各地権者との用地交渉など並行して工事設計書を作成し、工事発注を進めてまいりました。私は昭和55年当初、東大通り先線の常盤線を跨ぐ「荒川沖橋」の4車線化の事業に携わっていました。その後4年間、科学万博会場に隣接して土浦坂東線(エクスボ通り)建設の担いとなり、用地買収と道路工事の全力を傾けました。



大型張ブロック茨城県単価対応製品・輝度取得



いばらきの公共事業

つくばは半年間で200万人のお客をお迎えするためのインフラ整備を、綿密な計画と戦略のもと、組織一丸となって努力を重ねて成し遂げたお話を。 (弊社プロジェクトに掲載)

科学万博つくば'85(正式名称・国際科学技術博覧会)は、昭和60年(1985年)3月17日から9月16日までの184日間開催されました。現在のつくば市御幸が丘(旧谷田部町)、つくば西部工業団地の場所が第一会場

取得が伴う4車線道路の新設は、周辺道路としてつくば真岡線の暫定4車線化(約7km)、土浦坂東線の幅員拡張(約6km)も必要計画です。これらの整備を博覧会の開催までに完成させ、供用開始させることになったのです。これを実施するための現地事務所、国際博覧会公共事業建設事務所が土浦市下高津に設置されました。調査、設計、補償調査、その後は、国の承認をもらい、

金調達をし、用地買収を行い、次年度からの4年間で返済していく仕組みです。最終年度である昭和59年度の予算の一部について承認をもらって執行する、「いわゆる施越」も行いました。毎日のように事務所と各種調査、設計や用地取得、工事の進め方、土地取引、対応などの打ち合わせを行っていました。毎日毎日の残業、日曜出勤もいとわないで頑張りました。各路線事業認定の手続きは済ませましたが、土地収用を行っている余裕はありません。何が何でも地権者様のご理解をいただく他なかつたのです。建設業界の皆様にご苦労をかけたが、工事急ぎで進められました。現地事務所では一致団結、本庁と出先も一枚岩で頑張りました。成功させ、茨城県は大きく発展したんだと、しみじみ思っています。



一方、常盤自動車道は昭和56年、柏谷田部インターが開通となり、科学万博に合わせ昭和60年2月1日、日立北インターまで開通となりました。首都高の交点、三郷から柏谷田部まで環境対策として半地下形式となり、昭和60年1月24日に開通となりました。東京方面からの自動車交通は、谷田部インターと谷和原インター、また国道408号(牛久学園通り)に仮出口を設け、また水戸方面からは、桜井土浦インターからの誘導が計画されました。これらのインターアクセス道路は、道路建設課が担当したのです。

低差による将来の土地活用を考えたことが大半でした。また、残地面積の少ない地権者からは全面買収の要望もありました。科学万博の開催は、昭和60年3月17日から決まっていたため、地権者の要望や質問・心配事には昼夜を問わず、用地部の職員と一緒に、我がことのように親身になって話し合い、一つひとつ即決してまいりました。

冒頭、ホクエツ北関東営業所の藤田喜寿所長写真、は、関東プレキャストコンクリート製品工業会の上石健太郎会長のお話を代読した。今回の研修は、プレキャスト製品の製造工程や品質などの知識を積み重ね、

レキャスト化についての講義を実施。コンクリートについての基本的な事項や、プレキャスト化によるメリットなどを、資料を用いて説明した。その後、ホクエツより工場の説明を受け、敷地内の見学に移った。工場内を回りながら、作業工程などを見学。ホクエツの自社製品の实物を前に、製品の説明なども受けた。さらに、曲げ強度試験や圧縮試験などのデモンストレーションも見学した。参加者は、写真の撮影や質問などしながら、知識の習得に励んでいた。

知識習得へ工場見学

ホクエツ 県土木部職員が研修



プレキャスト製品の製造工程

河川(バンク)「大型ブロック」=省力化+スピード

今やコンクリートに求められるのは「強度」「耐久性」という基本性能だけでなく、「美しさ」「快適さ」「楽しさ」「自然との調和」という新しい要素。ホクエツは、自然環境を損なわず、さらに新しい環境を「創造」していくコンクリート製品の開発に力を入れています。例えば、河川や海洋分野の製品開発。これまでのような構造・性能を重視した製品から一歩踏み出し、河川や海の生態系を豊かに育みつつ、護岸の役割も果たす新しいコンセプト製品の開発などです。その他にも、交通バリアフリー法に基づいた商品や浄化機能を持った商品の開発など、さまざまな環境配慮型商品の開発に取り組んでいます。

株式会社ホクエツ 北関東営業所 〒300-4513 茨城県筑西市中根 870-2 TEL: 0296-52-5277 FAX: 0296-52-5258